

高校生が SNS を通じて感じている社会的融和度についての分析

加藤 英雄¹ 辰己 丈夫²

2024年2月13日

概要

現代社会では情報技術の進化が生活に大きな影響を及ぼしており、特にソーシャルメディア（SNS）や人工知能（AI）の台頭が、コミュニケーションや情報共有の方法を変え、新たな社会的課題や機会を提供している。本研究は高校生の SNS 利用と AI に対する意識を探求し、社会との融和を築くプロセスに焦点を当てる。青少年がネット環境で直面する危険性が増加している一方で、政府はムーンショット目標を掲げ、全国民がネットコミュニティに長時間滞在することを推進している。この矛盾する動きに対して、高校生がどのようにネットリテラシーを捉え、社会との融和をどの程度感じているかについて研究を行なった。

1 研究の経緯

私は自らが運営する勉強会において産学連携を行ってきた。同時に開発した商品を広報する際に学校間において SNS に対するリテラシーの温度差を見てきた。積極的に学生の活動の一環として SNS を活用するケースもあれば、画像はおろかイニシャルさえ使用を認めないケースもある。その差異を通して今後来るべきメタバース、デジタルツインの社会における一つのネットリテラシーとその教育の一つのベンチマークになり得る研究がしたいと考えた。

2 研究の背景

近年、総務省監修の「平成 29 年度総務省調査研究インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」に代表されるように青少年のネットリテラシーに基づく SNS の危険性が問われる事件が増えている。同時に内閣府の発表したムーンショット目標やメタ社のメタバースのように全国民の疑似空間の中での滞在時間をより長くするような動きもある。これら二つの流れに対して高校生はどのように社会との融和を感じ、そこで感じている危機感や期待感をより現実的に把握することで変わりゆくネットリテラシーと来るべき未来のコミュニティとの関わりの可能性を分析することとした。

3 研究の対象とその方法

筆者は、高校生に対して Google アンケートフォームを用いて SNS を中心としたコミュニティに関する社会的融和度の認知についてアンケートによる意識調査を行なった。具体的には私立 A 高等学校の協力の上、アンケート調査を行い、SNS における利用時間、公開アカウント、裏アカ・鍵アカ、フォロワー数などについて、また対話型 AI（ChatGPT）との向き合い方の現状について、約 25 問の質問を設定した。

個人情報保護の観点から無記名、任意回答とし、各質問についての回答は自由とし、その結果をクロス集計し χ^2 分析を行いその相関について検討した。

4 期待される効果

2023 年・2024 年時点における高校生のネットリテラシーと社会的融和度に対する自覚を分析することにより、今後迎えるメタバースやムーンショット目標、デジタルツイン社会における新たなネットリテラシーを想定するにあたり一つの参考となる結果が得られる。

5 先行研究

若本らは [1] において「中高生が SNS と現実場面に対して感じている居場所感の様相は異なる」としている。一上らは [4] において「よく使うアプリについて依存傾向にある群は若干ではあるがゲームの割合が高い」としている。また、朱らは [5] において「一番多い自撮りは『自分と他人』であり、一番投稿されている」とし

¹ Kato Hideo

放送大学 教養学部 情報コース 学士課程

² 放送大学 教養学部、情報コース

The Open University of Japan

ている。

6 結果

予備調査と本調査でアンケート集計結果が近似値だったペアのうち 10 組を抜粋して、表 1 に示す。

表 1 予備調査と本調査で p 値が低かったもの

設問ペア	予備調査 (回答数 39)		本調査 (回答数 110)	
	χ^2 値	p 値	χ^2 値	p 値
問 11 & 問 12	101.23	2.04E-14	210.34	2.24E-40
問 10 & 問 11	101.45	1.85E-14	207.27	9.88E-40
問 10 & 問 16	58.19	2.99E-09	182.86	1.10E-32
問 15 & 問 16	70.87	3.22E-08	208.25	2.63E-31
問 11 & 問 15	59.41	2.54E-06	190.90	6.57E-31
問 10 & 問 15	63.48	5.55E-07	188.93	1.61E-30
問 10 & 問 14	60.98	4.64E-05	167.36	8.27E-28
問 11 & 問 14	64.83	1.29E-05	160.85	1.66E-26
問 11 & 問 16	56.16	7.32E-09	171.84	2.01E-30
問 12 & 問 16	52.04	4.44E-08	162.06	2.00E-28

7 分析の結果

以下に、分析の結果を示す。

- 裏アカ・鍵アカの個人情報特定と使用時間における相関関係は極めて高い数値を示している。ヘビーユーザーほど個人情報のリスクが高い。長い利用時間はより多くの交流を生むことから個人情報を含むコミュニケーションの増加が個人情報特定の原因となる可能性がある。
- 裏アカ・鍵アカのフォロワー数と個人情報の特定も相関関係が高く、より多くの人とコミュニケーションが成立する背景と、裏アカ・鍵アカと言う限られた人間関係における心の緩みがより多くの露出を生み、個人情報の特定になっている可能性がある。
- 裏アカ・鍵アカのフォロワー属性と使用時間の関係は友人、先輩、後輩が多く、利用時間は 15 分程度で 90 分などの長い時間ではない。また短い時間で頻繁にチェックをするというインタラクティブなコミュニケーションを複数回、行なっている可能性もある。相関係数もとても高い。
- 使用目的と個人情報の特定も高い相関関係があり、特に趣味アカなどの趣味においてインタラクティブなやりとりと共通話題が多い背景から特定される可能性を示唆している。また、他の目的の場合、そも

その使用時間が短い可能性も高く、交流自体が少ないので個人情報の特定される可能性は下がる可能性もある。

- 使用目的とフォロワー属性についても高い相関関係があり、親しい人（家族や友人）と趣味などの共通の話題の交流のために利用されていることが示唆されている。またもし使用時間が短い場合、フォロワーが少なく、フォロワー属性が親近者でない可能性がある。
- 裏アカ・鍵アカのフォロワー数と使用時間の関係も極めて相関関係が高く、仮説に示した通りの結果となっている。フォロワー数が多いと言うことは露出も多く、交流も多いため使用時間は長くなると言える。逆にフォロワー数が少なければ使用時間も少ない可能性がある。
- 裏アカ・鍵アカのアカウントに実名を記載することと生年月日を記載する事においても高い相関関係が示された。これは限られた人間関係での交流である可能性が高く、アカウント上の個人情報の特定リスクというよりも自分を認識してもらうため、または自己承認欲求である可能性がある。当然だが危機意識は低い可能性がある。

参考文献

- [1] 若本 純子, 萩原 佳蓮: 中学生・高校生の居場所感とは SNS と現実場面で異なるのか, 日本心理学会大会発表論文集, 公益社団法人 日本心理学会, pp.3EV-083-PP, 2022
- [2] 内閣府: 令和 4 年度青少年のインターネット利用環境実態調査調査結果 (速報), 令和 5 年 2 月内閣府内閣府 (2020)
- [3] 辰己丈夫: 倫理綱領事例集とサイバーセキュリティ研究・イノベーション, 研究報告インターネットと運用技術 (IOT)2023-IOT-6031 号 1-12023-03-08
- [4] 一上 さおり, 辰己丈夫: SNS・ゲームへの中学生の依存傾向の調査と分析, PC Conference 論文集, CIEC, pp.167-170, 2020
- [5] 朱文昌, 稲垣俊介 辰己丈夫: 高校生の自撮り写真におけるソーシャルメディア投稿と承認欲求の関係について, 第 16 回全高情研東京大会, 全国高等学校情報教育研究会, 2023